

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170100739), 法人名 (社会福祉法人 溪仁会), 事業所名 (グループホーム西円山の丘 2階), 所在地 (札幌市中央区円山西町4丁目3番21号), 自己評価作成日 (平成25年10月10日), 評価結果市町村受理日 (平成25年12月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、団らんという理念の中で、ご利用者様一人一人が自己決定のもと生き生きと自信を持って生活を送れる様に、又、共同生活という今までとは違う空間での生活に対しても戸惑いやストレスに繋がらない様に、関わりを多く持ち支援している。 2、医療等との連携については併設する西円山病院、福祉施設との連携も密であり、医療、リハビリ、介護とトータルでサポート出来る体制が整っており、ご利用者様、ご家族様の安心に繋がっている。 3、地域町内会活動では、ダンボール堆肥、夏祭り参加、絵手紙サークル、キャンドルロード、ゴミ清掃など、関わる機会を設け、参加したご利用者様には笑顔が見られている。また是非参加したいという声も多く聞かれており、社会との関わりが薄くなりながら高齢者生活においてかけがえのない機会となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100739-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成25年11月14日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療・保健・福祉の各サービスを提供する溪仁会グループは、地域住民の生涯に亘るニーズに応える支援の一環として事業所を開設した。各分野で蓄積されたノウハウを活かし、安定的な運営を行い12年目を迎えている。円山の中腹に位置した敷地内には、病院・介護老人福祉施設・ケアハウスが隣接し、4階建て3ユニットの建物は中庭を囲んだ回廊式の設計で、自然光がたっぷり入り明るく広々としており、快適な生活が維持出来るように配慮されている。医療機関とは定期的な受診対応で協力体制を築き、福祉施設とはレクリエーションに訪問するなど相互交流を図り、利用者、家族の安心と安らぎに繋げている。管理者、職員は、常に質の高いケアを目指して向上心を持ち、日々学ぶ姿勢が伺える。運営本部は職員にアンケートを取りながら、働く意欲を維持するための環境整備に努めており、定着率も高い。事業所は町内会に加入し、運営推進会議にも町内会役員の参加を得ている。利用者は、夏祭りや盆踊り、花壇作り、町内のサークルに参加するなど、地域住民との交流の中から楽しみ事を見出している。事業所便りの「花だより」には写真を掲載し、暮らしの様子を家族に伝えている。家族には毎年アンケート調査を実施し、思いや意向を汲み取りケアサービスに反映させ、信頼関係を築いている。管理者、職員の良好なチームワークのもと、利用者の価値観を大切にしながら利用者本位のケアサービスに努め、生活感や季節感を取り入れて、家庭的な団らんの場を作り上げている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff performance metrics.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は「団らん」であり、職員全員が理解し実践していると思われる。	開設時は運営母体共通の理念を掲げていたが、改めて全職員で事業所独自の理念「団らん」を作り上げている。理念を利用者に書いてもらい、各フロアの入口に掲げている。管理者、職員は理念を共有しながら実践に取り組んでいる。	理念が地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した内容であるか、更に日々のケアに反映されやすく、具現化しやすいものであるかを、全職員で検討することを期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に積極的に参加している。町内会の方たちをホームの行事にお誘いすることもある。	地域との交流が難しい立地環境のなか、町内会に加入し、ゴミ清掃や堆肥作りに協力している。また、花壇の植え込み作業や夏祭り、盆踊り、サークルなどに積極的に参加している。利用者の作品を1階に展示し来訪者に見てもらい、ふれあうきっかけとしている。ボランティアも受け入れ、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会へ向けたダンボール堆肥作りの実施・提供を行っている。町内の花壇作りに役立てて頂き、花壇作りにもホームの入居者が職員と一緒に参加し、楽しまれている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1度行われており、町内会の方・地域包括支援センター職員・ご家族・当職員・系列病院の医療福祉課の職員などが参加している。近況報告や事故報告、関連施設の情報、今後の予定や行事等の説明、事業所に対する要望などを聞かせて頂き、検討した上でサービスに反映させている。	地域包括支援センター職員、町内会役員、民生委員、系列病院職員、家族の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。運営状況、利用者状況の報告、行案内、家族アンケート内容の検討などを議題とし、活発な意見交換が行われ、運営に反映させている。	現在は家族の代表者が参加している。今後、少しでも多くの家族が会議に関心を持てるよう、全家族に議事録を配布することを期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険に関する相談や書類上の確認等は管理者が行っている。	行政との連絡は主として管理者が行っている。各種書類は、担当窓口に直接出向いて提出し、連携を図っている。2ヶ月毎の管理者会議には行政担当者も参加し、情報交換を行いながら協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は外部からの不審者などを防ぐなど、安全のために行っている。そのほかの身体拘束は定期的な職員研修なども行い、職員全員周知し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備している。年1回内部研修を実施し、身体拘束の弊害について全職員が理解を深め、身体拘束の無いケアを実践している。エレベーター前にセンサーを設置しているが、外出傾向にある利用者には、話を聞き原因を探り、見守りながら自由な暮らしを支援している。不適切な行為が見受けられた場合は、その要因を分析する姿勢を持ち、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な職員研修を行い、日々職員同士で話し合いを行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人で学んでいるスタッフはいるが、現在対象者がいないためフロアとして学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去に関しては管理者が説明を行っており、理解・納得を得られるよう対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方とは日々コミュニケーションをとることによって、信頼関係ができ、都度要望を聴く事ができている。家族へは面会時や1年に1度アンケートを取るなどして意見や要望に対応出来るよう努めている。	家族からは、年1回のアンケート調査をはじめ、来訪時や電話連絡の際に意見、要望を引き出し、迅速な対応に努めている。定期的に季刊誌「花だより」を発行し、暮らしぶりを伝えている。利用者の日々の会話や表情から希望や要望を汲み取り、職員が感じ取った事柄も個人記録に残し、職員間で情報を共有しサービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を年に3回実施し、月に1回全体会議を実施している。その他にも日々コミュニケーションをとる中で意見や提案を出せる機会がある。	管理者は、日々の申し送りや全体会議、個人面談にて日常業務やケアサービスに関する職員の意見や要望、提案などを聞き取り、話し合う機会を設けている。職員は各担当役員を担い、意見を運営に反映させている。運営本部はアンケートを実施し、職員の働く意欲の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績・勤務状況の把握に努めている。毎年のベースアップ及び資格取得に応じた手当などを支給している。又、リフレッシュ休暇として有給休暇の積極的な取得も働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月に1回行われており、法人内・法人外の研修への参加も積極的な参加を勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実務研修などの受け入れや、外部の研修に行くことにより同業者と交流する機会を作れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声に耳を傾けながら安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望をや思いを受け止め、信頼し合えるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応出来る事に関しては迅速にサービスが受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を共にするという事で、ゆったりとした時間の中、お話しをしたり、お互いに昔・現在のことを教え合ったりと、親しい中にも礼儀を持って、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の面会の際や、行事参加への声掛けを行い、積極的に関わりを持ち、ご家族の思いやホーム・職員に対する意見などを伝えやすい環境作りを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や隣接する施設の友人や家族、職員に会いに行ったり、反対に友人の方がホームに遊びに来られたりと、馴染みの方との気軽に関わりが持てるよう支援している。面会しやすい環境作りも心がけている。	親しい友人の来訪時には、お茶でもてなしている。馴染みのスーパーでの買い物やレストランでの飲食には職員が同行し、行きつけの美容室や思い出の場所へのドライブや自宅訪問などは家族の協力の下、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方同士でのコミュニケーションを大切にしている。必要時には入居者同士が気持ちよくコミュニケーションがとれるよう、橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には退去後もご家族や現在の担当者と連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わり合いの中でご本人の思いを聴いたり、時には家族の方に聴いたりすることもある。職員間で情報を共有し、出来るだけご本人の希望に沿った生活ができるよう努めている。	利用者の担当職員が中心となり、日常会話や表情、仕草から利用者の気持ちや希望の理解に努めている。職員の気付きを連絡ノートに記録し、情報を共有しながら意向に沿った支援を行うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中やご家族からの情報(センター方式に記入して頂いている)から情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細やかな記録を行い、職員同士で情報を共有できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が入居者の担当を持ち、ご本人やご家族に生活やケアに対する意向をお聴きし、日常生活の記録を踏まえ計画作成者のアドバイスの下、計画の作成・評価を行っている。	利用者の担当職員が中心となり、毎月のフロア会議にて全利用者の状況を確認し合い、状態を分析するとともに、課題について職員間で意見を出し合っている。3ヶ月ごとにモニタリング、カンファレンスを行い、家族の要望を汲み取り、6ヶ月サイクルで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録の他に、月に1度のフロア会議で意見を出し合ったり、連絡ノートの活用、何か気付いたり気になる事があった時には都度、職員同士で話し合いを設け、情報を共有し、ケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接している施設などの職員や他職種の職員と連携を取り、必要時には相談・助言していただき協力し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア参加による動物園行事、演芸会など楽しめる時間を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況に応じて、提携医療機関以外にも専門医の受診が行えるよう対応している。	利用者の多くは協力医療機関をかかりつけ医とし、月1度の定期受診には職員、看護師が付き添い支援している。以前からのかかりつけ医への受診は家族対応を基本としている。受診結果は互いに即報告し合い、情報の共有を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回の看護師の出勤にて、体調報告や健康管理、ケアについての相談などを行い、入居者が適切な受診・ケアを受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携により情報の交換を行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を優先に考えた対応・方針を共有している。	重度化への対応指針は明文化されており、利用開始時に説明し、同意書を得ている。前回の外部評価受審時には、重度化について全職員での意見交換の場を持つことを目標達成計画に提示しているが、終末期に向けた具体的なケアサービスの方針がまとまっておらず、職員間で十分な話し合いを持つまでには至っていない。	系列医療機関との連携体制が強化されており、家族の安心に繋がっていることが認識できる。しかし、在宅での看取りが重要視されている現状で、利用者、家族の信頼に繋げるために、職員の倫理観や質の向上を含めて意識統一を図り、グループホームとしての受け入れ環境の整備に取り組むことを期待する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	比較的頻度の高い転倒や体調不良に関しては応急手当や初期対応の実践力を身につけている。緊急マニュアルがあり、全職員に説明し、把握している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回、日中・夜間を想定し、入居者と職員が参加しシミュレーションを行っている。夜間は隣接施設より応援体制が整っている。地震に関してはマニュアルが作成されている。運営推進会議にて、町内会や家族の方へも避難訓練参加の呼びかけを行っている。	12月に夜間を想定した訓練を予定している。防災設備点検を年2回実施し、災害時マニュアルや職員連絡網を整備している。避難場所も確保され、非常用備蓄品も準備している。	法定基準である年2回の避難訓練実施を期待する。地域住民の協力・参加の呼びかけに継続して取り組むとともに、火災以外にも様々な災害を想定し、確実な避難誘導ができるよう対応策を図り、自主訓練に取り組むことを期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時や入浴時などは環境や声掛けの仕方に気を配っている。同姓介助を希望される方にはそのように配慮している。その他にも個人の踏み入って欲しくないと思われる事にも配慮している。	職員は常に利用者一人ひとりの誇りを大切にした言葉かけを行い、敬意ある対応に配慮している。個人情報には鍵の付いたロッカーにて保管し、十分注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせた働きかけをし、自己決定できるよう選択肢が持てる声掛けを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に応じて買い物に付き添ったり、入浴の希望にも臨機応変に対応している。入居者の希望に沿うような言葉がけ・誘い方に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人のおしゃれに対する意識を尊重している。毎朝お化粧する方もいる。隣接する床屋さんが土曜日に髪のカットに来て下さっている。パーマ・髪染は床屋まで行き行う事ができる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る方は毎日食事準備から後片付けまで、疲れない程度に一緒に行って頂いている。調理方法も訊ねたりしながら楽しく行っている。	献立は各ユニット毎に、職員が利用者の嗜好を把握して作成し、食材の購入は業者に委託している。外食や行事食も企画し、10月にはフードフェスティバルを開催するなど、家族と一緒に楽しむ機会を設けている。利用者は意向や力量に合わせて準備に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取状況を把握し、食事量や水分量が少ない時には補助食品等を勧め、一定の量や栄養バランスが保てるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の身体状況に合わせた声掛け・見守り、必要な方には介助し毎食後に実施する。菌間ブラシ・スポンジブラシなども本人に合わせて使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、時間や本人の動き・状態を見て声掛けを行い、トイレでの排泄が出来る様、個々の状況に合わせて対応している。	排泄パターンを把握した上で尊厳に配慮した声かけを行っている。各居室にトイレが設置されており、気兼ね無く使用できる安心感がトイレでの排泄を促し、自立に向けた効果に繋がっている。日中は布パンツ、夜間はリハビリパンツにパット対応で、極力オムツを使用しない支援を行っている。衛生用品の使用のタイミングは会議で話し合い検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄間隔を把握し、乳製品の摂取や水分摂取、適度な運動を勧め、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に沿った支援体制で行っているが、夜間の入浴希望には対応できていない。ご家族と一緒に入浴されたりすることもある。	週2回を目安に、希望に応じて毎日入浴できる体制が整っている。入浴が心も体もリラックスできる時間となるように、職員は利用者の体調や気分を大切にしながら支援している。拒む利用者には無理強いせず、足浴や清拭で対応し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室にて、個々の体調に合わせた休息時間の確保は出来ている。夜間眠れない場合には温かい飲み物を勧める、一緒にお話しをするなどして対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の疾患を把握すると共にDr・看護師の指示からの情報、処方箋に基づき薬について理解している。確実に服薬できるよう、薬袋に色分けしたラインを引く等の対応を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や体調に合わせた活動への参加を声掛けしている。年中行事や個人の記念時などは全入居者でお祝いするようにしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時や天気の良い日などはには外出して買い物や喫茶店へ出かけたり、ホームの玄関にある花に水やりがてらに散歩に出かけたりしている。	花見や円山動物園見学、町内の盆踊り、町内会サークル受講など戸外に出る機会を作っている。更に、利用者一人ひとりの希望を聞き、美容室や買い物、散歩、外食、ドライブなど家族の協力も得ながら支援し、気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は職員が行っている。本人の希望で少額の金銭を自己管理している方もおり、始めにご家族にいろいろなリスクがあることを説明・納得して頂いたうえでお持ち頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話を設置しており、本人の希望に応じた対応を行っている。手紙を書かれた方は職員が預かりしポストに投函している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは広い空間を利用し、明るい雰囲気作りをしている。季節や行事に合わせた飾り付けを入居者と一緒に作成・飾り付けを行っている。冬期は床暖が入っており暖かく、加湿にも力を入れている。	各ユニットは、中庭を囲んだ回廊式になっており、リビングも廊下スペースも幅広くゆったりとして、明るく開放感がある。リビングの大きな窓からは札幌が一望でき、四季の移り変わりが楽しめる。キッチンアイランド方式で、利用者も手伝い易い造りとなっている。冬は床暖房を使用し暖かく、加湿器は適度な間隔で配置され、温度、湿度も管理された、清潔で快適な空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどで自由に過ごせる環境を整えている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や生活用品をお持ちいただき、使用されている。	居室にはトイレ、流し台、クローゼット、防災カーテンが設置され、ベッドも用意されている。ゆったりとした居室には、馴染みの家具やテレビ、冷蔵庫、電話など生活必需品が持ち込まれ、趣味の飾り品や家族写真、手作り作品なども飾られ、その人らしい居心地の良い環境になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事に目を向け伸ばしていけるように、個々の状態に合わせた環境整備・安全確保に努めている。		